

第3章 「やまがた木育」の進め方

1 「やまがた木育」の展開方向

全ての世代に、森との絆を深め、暮らしの中に木を活かしていくには、「やまがた木育」の活動の狙いを明確にしていく必要があります。そこで、「やまがた木育」では、各世代で、森や木について、「触れる」、「創る」、「知る」という3つの活動を展開し、実施方法を分かりやすく、具体的な事例を示しながら進めていきます。

○ 「森・木」に触れる

五感を通して体感し、森や木に興味と関心を持つ活動です。

○ 「森・木」で（を）創る

様々なものづくりを通して、作ることの楽しさや自ら作成したものへの愛着を育む活動です。この活動には、植林体験などの森づくりも含まれます。

○ 「森・木」を知る

人と「森・木」との関わりを学びます。森林の働きと人との関係や木材の利用と人との関係について、科学的な視点も取り入れながら深く学ぶ活動です。

これらは、段階的な活動ではなく、対象の理解度、内容、目的及びスケジュールによって段階を省略したり、順番を組み替えたりすることができます。

2 世代別の活動と「やまがた木育」の展開

「やまがた木育」の活動は、乳幼児からお年寄りまでの全ての世代を対象としているため、世代間の交流や活動を通じた人と人との関わりにより、さらに充実した内容になることが期待されます。そして、これまでの経験や森や木に対する認識・理解度に合わせて展開していきます。その際は、素材としての木材の良さ（手触り、温もりなど）を体感するとともに、木材利用の意義（二酸化炭素の固定、再生可能エネルギーとしての利用を含めた循環利用など）と森林の大切な役割である公益的機能（水源かん養、山地災害防止、地球温暖化防止、野生鳥獣の生息場所など）及び木の文化について、認識・理解度を高めていきます。

そこで、1で掲げた3つの活動の展開に応じた世代別で取り組める「やまがた木育」の事例を次表で紹介します。

表 「やまがた木育」の3つの活動の展開に応じた世代別の取組み事例

世代 活動	乳幼児	小学生	中学生	高校生	成人 (大学生を含む)
触れる	<ul style="list-style-type: none"> 木のおもちゃで遊ぶ(積木など) 公園など身近な場所の樹木で遊ぶ 	<input type="checkbox"/> 低学年 <ul style="list-style-type: none"> 木材の音遊び 木の葉や木の実 集め <input type="checkbox"/> 高学年 <ul style="list-style-type: none"> 木のぼり 	<ul style="list-style-type: none"> 森林の働きに関する体験学習 	<ul style="list-style-type: none"> 寺院・神社など木造建築物の見学 	<ul style="list-style-type: none"> 住まいづくりのための森林見学ツアー
	地域の森づくり活動				
○ 世代によらない活動 ネイチャーゲーム、森林散策、森に関する安全教育、森の恵みを味わうなど					
創る	<ul style="list-style-type: none"> 木の感触を楽しむ木工品を作る(木育クラフト) 	<input type="checkbox"/> 低学年 <ul style="list-style-type: none"> 木の昔遊び(竹とんぼなど) 身近にある道具を使って木工品を作る(木育クラフト) <input type="checkbox"/> 高学年 <ul style="list-style-type: none"> 組立を中心とした巣箱など簡単な木工品を作る 	<ul style="list-style-type: none"> 技術・家庭科の授業で、県産木材の椅子や机などを作る 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の施設で活用する木工品を作り提供する 	<ul style="list-style-type: none"> 木材を使うDIY活動 家族や子どものためのもの作り
	○ 世代によらない活動 木を植える、木工道具に関する安全教育 など				
知る	<ul style="list-style-type: none"> 絵本を通して、森や樹木に関心を持つ(木育絵本) 森で虫をさがす 	<input type="checkbox"/> 低学年 <ul style="list-style-type: none"> 学校林での活動 本を通して、山形の森林や木を知る(木育ブック) 身近にある木製品を探す 昆虫採集 <input type="checkbox"/> 高学年 <ul style="list-style-type: none"> 学校林での活動 社会科の授業の授業で「やまがたの森林」を読む 「森のたんけん手帳」を見ながら森林を観察する 	<ul style="list-style-type: none"> 林業体験(インターンシップ) 森林調査 	<ul style="list-style-type: none"> 森林調査(地域の森の健康診断) 	<ul style="list-style-type: none"> 間伐体験に参加する 木質バイオマス見学会に参加する
	様々な素材から木製品を選ぶ、森林に関する講演を聞く				
○ 世代によらない活動 苗木を育てる(森のホームステイ)、森に関する安全教育 など					

※ この表は、参考例であり、実施内容については参加者の熟度に応じて、世代にこだわらず実施することが想定されます。

3 「やまがた木育」の展開方向の具体的な事例

ここでは、「触れる」、「創る」、「知る」という3つの活動の展開方向に応じた世代別の具体的な事例を紹介します。

(1) 乳幼児【県産木材の積木体験】

○ 県産木材の積木で遊ぶ（触れる）

ア ねらい

- ・ 県産木材で作成した積木で遊ぶことで、木材の良さを体感的に知る。

イ 内容

- ・ 積木とその材料である地域の木材について話を聞く。
- ・ 建具職人が、木材をカンナで削り実演する。
- ・ 作成された積木で遊ぶ。

ウ 効果

- ・ 積木で遊んだ園児が、体験を通して木材の手触り、温もり及び香りに気づく。



(2) -1 小学生（低学年）【秋を探してみよう】

○ 紅葉のステンドグラスづくり （創る）

ア ねらい

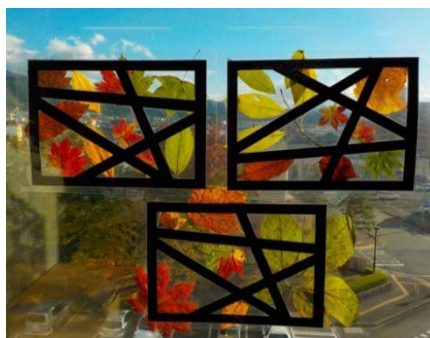
- ・ 自然のものを活かして工夫する心を養う。
- ・ 自分だけのものを創る。
- ・ 自然の「季節」の変化を認識する。

イ 内容

- ・ 近隣の里山で、紅葉の葉を探し集める。
- ・ 集めた葉は「色見本」で秋の色を確認し、赤など秋の色を多く採取する。
- ・ 黒画用紙で枠を作り、集めた紅葉の葉を貼り付ける。
- ・ 教室の窓に貼り付け、ステンドグラスにする。

ウ 効果

- ・ 自ら採取した葉を使い、世界にひとつしかない作品ができる。
- ・ 黄、オレンジ、赤の葉を使い、樹木が季節で変化することを理解する。



(2) -2 小学生（高学年）【学校林を調べてみよう】

○ 学校林調査 （知る）

ア ねらい

- ・ 学校林の樹種や本数、木の成長の様子などを調べ、記録することで、人工林と天然林の違いがあることや学校林の目的、歴史などを学ぶ。

イ 内容

- ・ 学校林が作られた歴史と経過、面積や樹種などを調べる。
- ・ 学校林で、機器を使い、樹木の直径などを計測する。さらに、樹高と直径から木材の体積を求め、記録する。
- ・ 学校（地域）の財産である学校林を記録し、残すことの大切さを伝える。
- ・ 間伐体験で得られた間伐材で丸太イスを作り、森林資源の循環利用を体験する。

ウ 効果

- ・ 木材利用の意義や学校林の歴史などについて理解が深まる。



(3) 中学生【ふるさと教育の森】

○ 植林体験と森林教室（創る、知る）

ア ねらい

- ・ 森の中で生徒が自ら苗木を植え育てるという体験学習を通して、自然や森林の大切さを学び、ふるさとの愛着を育むとともに、体験の中で「生きる力」を育てる。

イ 内容

- ・ 専門機関の職員の指導のもと、スギやブナの植林を行う。
- ・ 過去に植林した場所については、下刈り、間伐、除伐などの保育作業を行う。
- ・ 植林・保育作業の体験の他に、炭焼きや動植物観察などの各種森林教室を生徒が選択し体験する。

ウ 効果

- ・ 森の中での植林体験や森林教室を通して、自然の雄大さや林業サイクルの仕組みを学ぶことで、森林を身近に感じ、自然との共生を実感するとともに、自然環境・保護に対する関心、責任感、保全意識が高まる。

